

平成 26 年 5 月 30 日

各 位

東 京 都 千 代 田 区 麴 町 三 丁 目 2 番 4 号  
会 社 名 株式会社スリー・ディー・マトリックス  
代 表 者 名 代表取締役社長 高村 健太郎  
(コード番号：7777)  
問 合 せ 先 取 締 役 新 井 友 行  
電 話 番 号 03 (3511)3440

## 自己組織化ペプチド技術の『膵臓再生』に関する特許取得のお知らせ

当社が国立大学法人岡山大学と共同で出願しておりました自己組織化ペプチド技術について、膵臓再生への適用に関する特許が米国にて成立いたしましたので、お知らせいたします。

- 【発明の名称】 細胞の培養方法および細胞培養物  
【特許番号】 米国特許第 8,697,438 号  
【特許権者】 国立大学法人 岡山大学、株式会社スリー・ディー・マトリックス

本特許は、自己組織化ペプチドを足場にして培養した膵島（膵臓の中でインスリン等を分泌する細胞塊）に関する特許で、自己組織化ペプチドによる3次元足場環境下で培養することで生体機能を維持した膵島の有用性が示されております。当該分野に関して、小林直哉博士（社会医療法人盛全会 岡山西大寺病院理事長、元岡山大学医学部消化器外科講師）が臨床応用に向けた成果を論文や学会で発表しており、本特許は本年2月に取得した膵島の培養方法の特許を補完する位置づけで、当社は培養方法と細胞培養物の両方に対して権利を保有することになります。

現在の臓器移植において、移植する細胞・組織の生理的機能維持が課題となっており、膵島の培養技術が確立された際には、糖尿病患者に対する膵島移植の分野に貢献することが可能となります。一般的に膵島の培養では、2次元（平面的）な培養面で継代培養を重ねると、細胞の機能が消失することが知られており、機能が維持された細胞を培養することは難しく、現在も多くの研究が進められております。本特許に示された3次元培養法によって培養された膵島は、通常の培養法で培養された膵島に比べて有意に長く生体機能を維持しており、膵島移植の技術の確立しうては糖尿病治療に貢献することが期待できるものです。

当社は今後も本特許を活用して再生医療領域での研究開発を進めてまいります。同領域では、骨再生・皮膚再生の分野で開発を進めており、臓器再生の分野にも拡大し有効な医療製品の開発を進め企業価値の拡大を図ってまいります。

なお、現段階においては、本件による本年度以降の業績予想への影響はありません。

以 上